

10/7 朝日

新たな金品受領 9人

関電再調査 子会社元役員ら

関西電力は6日、子会社の関電ブランド(旧・関電興業)の元役員ら9人が、福井県高浜町の元助役(故人)から計300万円以上の金品を受け取っていたと発表した。子会社を再調査して判明した。これで一連の金品受領の対象は関電元役員ら計83人、総額約3億

7千万円相当となった。▼6面II会見一問一答 関電子会社のKANSOテクノスで元役員が受領していたことが7月に発覚し、同社を含めた子会社6社などで実態を再調査していた。調査は同月31日、10月2日、6社の元役員ら約240人から電話で聞き取

りをするなどした。関電ブランドでは、元助役側との金品授受を記録したメモが残っていたという。受領の内訳は、関電ブランドの元社長ら5人が商品券計293万円▽関電の高浜原発(福井県高浜町)などの元幹部3人が重箱やネクタイ、反物、金杯▽関電

不動産開発の元幹部1人が商品券10万円。期間は1992年ごろ、2006年に及んでいたという。

6日に会見した関電の弥園豊一副社長は「新たな金品受け取りが判明したことは誠に残念。とりわけ第三者委員会に適切な申告がなされなかったことを重く受け止めている」と謝罪した。今回の再調査で「『うみ』はほぼ出し切ったと考えている」とし、元助役側への便宜供与などを追加調査する考えはないとした。

関電では昨年9月に金品受領問題が明らかになり、弁護士をつくる第三者委員会が今年3月、元役員ら75人が計約3億6千万円相当を受領していたとする調査結果を発表。だがその後、7月にKANSOテクノスの元社長ら2人による計400万円超の商品券と現金の受領が内部通報で発覚。子会社を再調査していた。

第三者委の但木敬一委員長(元検事総長)は6日、

「今回新たに判明した事実
は、調査結果全体に影響を
与えるものとは考えていな
い」とのコメントを出し
た。同日、関電から報告を
受けた経済産業省も今後、
内容を精査するという。

(橋本拓樹)